# ≪どうでもいい話、その565≫

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

シルバーカレッジを卒業して、神戸市環境未来館に勤めていましたが、現在は稼働していないので、未来館のグループがこの４月から貸農園で、野菜を育てています。毎日水やりと雑草抜きを交代で行っており、週１日くらい１時間程度ですが通って、作業のあと食べごろになった野菜を収穫して家に持って帰ります。今まで収穫したのは、トウモロコシ、トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、オクラ、シシトウなどです。　今まで野菜のことは関心がなかったのですが、この頃少し注目するようになりました。注目した中で「大根」は、他の野菜とちょっと違っています。こうなりたいという方針が全くありません。形、大きさなどなんの方針もなく、ただタテに伸びているだけ、そしてデブです。したがって人間もデブな足を大根足といいます。ゴボウなんぞは、ボクは細く、ひょろながで、色は茶色でいこう、と、またニンジンもわたしは短く、先細りで色はダイダイでいきます、との方針を持っていますが、オイ大根よ、色はこういう色でいこうって、思ったことある？自己主張ってのがどこにもないよな。表面だって、

なんの工夫もなくただのツルツル、カボチャをみてみなさい、ミゾをつけて色も工夫しているじゃない。スイカなんかは表面は芸術的な縞模様で、中は赤色でコントラストをつけ、ところどころにタネでアクセントもつけているだろ。レンコンも切ると中にトンネルがあって独特の構造だし、ピーマンも外見はきれいなグリーンで中は空虚をアピールしているよな。それに比べあんたは切ってみても特徴はなし、表と同じ　なーんの工夫もない。名前も仲間の人参は人が参上する高貴な名だが、大根なんてダサい名前で、愚鈍なヒトなのよね。あんたってヒトは。

岩波より